教育委員会定例会資料　5

令和５年１０月１９日
文化スポーツ部ふるさと文化財課

府中市文化財保護審議会答申について

１　趣旨

令和４年５月に教育委員会から府中市文化財保護審議会へ諮問したことについて、令和５年９月２９日に答申が提出されましたので報告するものです。

２　諮問内容

府中市文化財の指定について

３　内容

諮問を受け当該審議会において１年４か月間審議を行い、別添資料のとおり、府中市文化財として指定されるよう答申を受けました。

（別添）資料

指定物件の詳細

１　名称

武蔵府中郷土かるた初刷一式及び原画

２　員数

(1) 武蔵府中郷土かるたの初刷
内容は、読み札と取り札各 46 枚の計 92 枚、その予備札４枚、あいさつ状１枚、項目所在図と内容一覧１枚、収納箱１合

(2) 赤羽末吉の手描きによる取り札原画 46 枚

３　所在地（保管場所）

府中市南町６丁目 32 番地　府中市郷土の森博物館

４　所有者

府中市

５　文化財の種別

府中市有形文化財（歴史資料）

６　品質形状及び寸法

(1) 武蔵府中郷土かるたの初刷

・読み札と取り札（予備札含む）
紙製（和紙との合紙）、縦 8.9 センチメートル、横 6.3 センチメートル、厚さ 0.05 センチメートル

・あいさつ状
紙製、縦 7.6 センチメートル、横 18.15 センチメートル、二折

・項目所在図と内容一覧
紙製、縦 23.65 センチメートル、横 35.15 センチメートル、八折

・収納箱
長方形覆蓋造
蓋は紙製、縦 9.7 センチメートル、横 13.9 センチメートル、高さ 1.9 センチメートル、組立て式
身は、紙製、縦 9.5 センチメートル、横 13.5 センチメートル、高さ 2.05 センチメートル、総高 2.05 センチメートル、組立て式

(2) 赤羽末吉の手描きによる取り札原画
紙製（和紙）、水性絵具（一部墨）、縦 8.9 センチメートル、横 6.3 センチ

メートル、厚さ 0.05 センチメートル

7　説明

(1) 概要

本歴史資料は、昭和 48（1973）年 1 月に発行され、今日府中市郷土の森博物館に保管される「武蔵府中郷土かるた」(以下、「郷土かるた」という。)の初刷の読み札と取り札各 46 枚の計 92 枚、予備札 4 枚、あいさつ状 1 枚、項目所在図と内容一覧 1 枚、これらを収める収納箱 1 合及び赤羽末吉（あかばすえきち、1910～1990 年）の手描きによる取り札原画 46 枚で構成される。歴史資料であるとともに、教育資料としての価値を有する。また、発行当時のものがほぼ改変もなく、現在に伝えられてきた郷土かるたは、国内でも稀有な例である。

郷土かるたの読み札の句は、府中市の歴史、民俗、伝承、自然、文化財などをテーマに詠まれたもので、その裏面には関連事象のわかりやすい解説が付されている。府中市教育委員会では、今日まで 15 万 6 千組ほどを発行してきた。現在でも、市内小学校の第三学年児童全員に郷土学習資料として配布し、小中学校のふるさと府中学習の教材として活用されている。

(2) 郷土かるた制作の趣旨、作成の経過及び活用の取組

郷土かるたの制作の趣旨は、昭和 46（1971）年 10 月 29 日開催の第 1 回作製準備委員会記録によると、府中市は国府が置かれた歴史の町で、市民や子どもたちの郷土愛の醸成を願って、やさしく明るく口ずさめ、親しめる郷土府中のいろはかるたを制作する、とある。

昭和 29（1954）年に 1 町 2 村が合併して新たに府中市が誕生した。新しい市としての一体感を企図して、さらに 8 年後の昭和 36(1961)年には市史編さん事業が開始されたこともあり、次代を担う子どもたちが楽しみながら、郷土の歴史や伝統文化に親しめる教材が求められた。

読み札の作製は、810 枚の市民公募等の文案から調整された。

取り札である絵札の原画は、赤羽末吉の手描きによる。赤羽末吉が昭和 26（1951）年から昭和 45（1970）年までの 20 年間、府中市民であったことなどの理由で選ばれたものと考えられる。赤羽末吉は、現在でも、多くの子どもたちに親しまれている絵本「スーホの白い馬」や「笠地蔵」などで知られる日本の絵本画家で、海外からも高い評価を得て、国際アンデルセン賞画家賞を受賞している。その美術的価値とともに、優雅であじわいのある絵の魅力も、郷土かるたが多くの市民に親しまれてきたことにつながっている。

市の教育委員会では、昭和 48 年に「郷土かるた展」を開催するとともに、「郷土かるためぐり」標識・標柱 48 本を各読み札の関連場所に設置し、現地散策を呼び掛けた。その結果、現在でも、夏休みの自由研究などで、親子で標識巡りをすることも恒例となっている。また、小中学校とも総合的な学習で取りあげるほか、かるた大会などを実施し、郷土学習の教材としてき

た。

さらに、郷土の森博物館主催の展示会や府中市の遺産の活用を考える会による武蔵府中郷土かるた選手権大会なども開催されてきた。

このように、これまで長きにわたって、市民とともに郷土かるたの普及・啓発に努めてきたことがわかる。

郷土かるたは、過去50年間のみならず今後も、郷土学習のための学校教育資料と位置づけられるだけでなく、府中の長い歴史と伝統が反映された貴重な文化財として高い価値を有する。さらに、郷土の歴史に対する関心と、本市に愛着を感じてもらう重要なアイテムであり、市民共有の財産となっている。よって、将来に亘って永く保存し、活用すべき文化財と思料される。

８　他の法令による制限

特になし。

９　参考文献

府中市教育委員会『武蔵府中 郷土かるためぐり』昭和59年11月

府中市『府中市政史』平成5年3月

府中市教育委員会『府中市教育史』下、平成14年12月

府中市の遺産の活用を考える会『武蔵府中郷土かるた解説書』平成30年11月

赤羽茂乃『絵本画家 赤羽末吉　スーホの草原にかける虹』福音館書店、令和2年4月

小野一之「宮本常一が府中から考えた観光のこと、博物館のこと」『あるむぜお』№134　府中市郷土の森博物館、令和2年12月

松本三喜夫「「武蔵府中郷土かるた」と赤羽末吉」『新府中市史研究　武蔵府中を考える』第4号　府中市史編集委員会・府中市、令和4年2月

府中市『新府中市史　近現代 資料編』下、令和4年3月

10　指定後の方針

指定後は、郷土かるたの文化的・歴史的価値を将来に亘って永く維持するために、初刷一式と原画の保存を図る。さらに、学校教育や多くの市民に広く利用されるべく、活用を推進していく。

○指定基準

府中市文化財の指定、登録及び選定に関する基準（抜粋）

第１　府中市指定文化財

１　府中市指定有形文化財

(6) 歴史資料

ウ 歴史上重要な事象及び人物に関する遺品で、歴史的又は系統的にまとまって伝存し、地域的又は学術的価値の高いもの

武蔵府中郷土かるた初刷
読み札・読み札裏面解説・取り札・赤羽末吉の取り札原画（左から配列）

図１－１　㋑の札

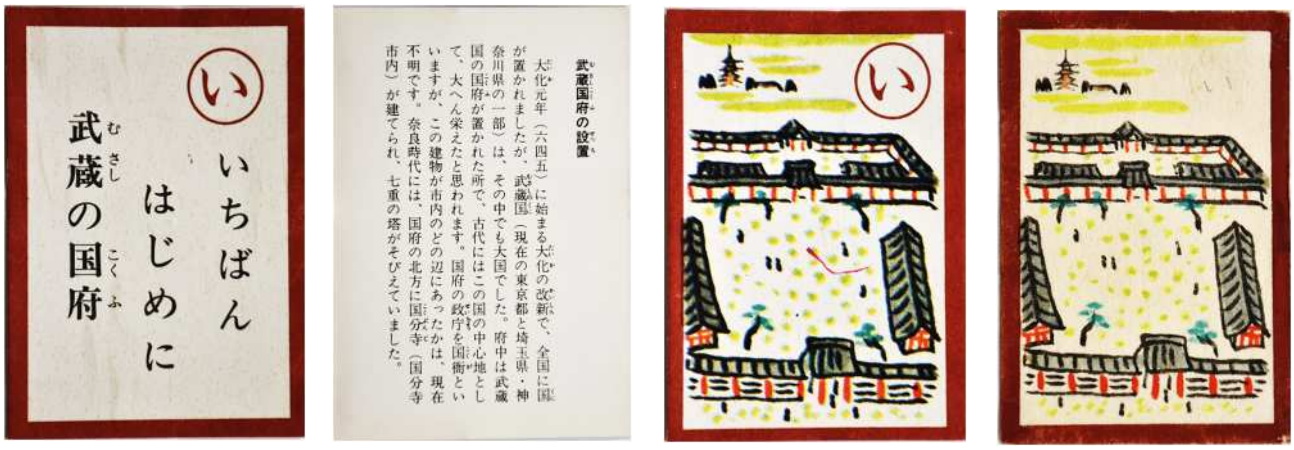


図１－２　㋺の札

図１－３　㋩の札

図１－４　㊀の札

図１－５　㊁の札

図１－６　㊂の札

図１－７　㋐の札

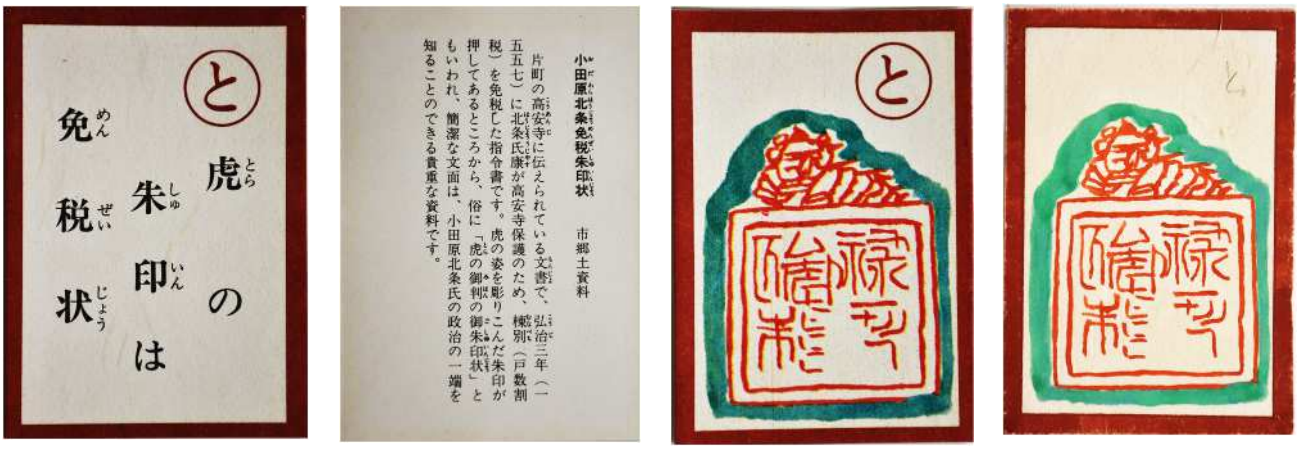
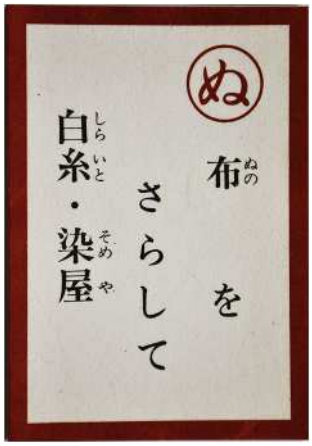


図１－８　㋒の札

図１－９　㋚の札

図１－10　ぬの札



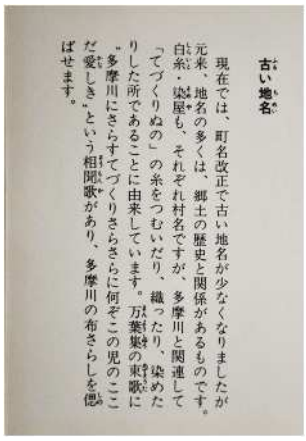


図１－11　るの札

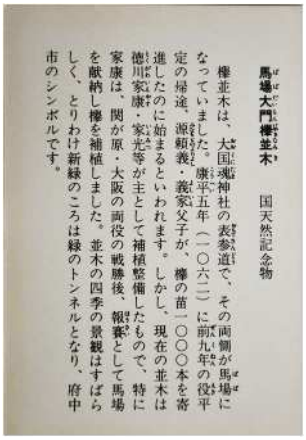


図１－12　をの札

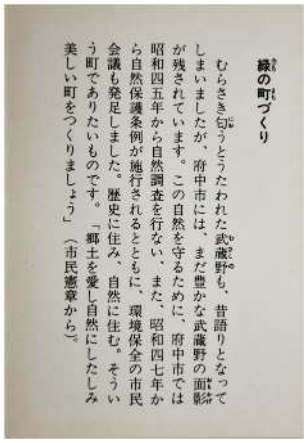
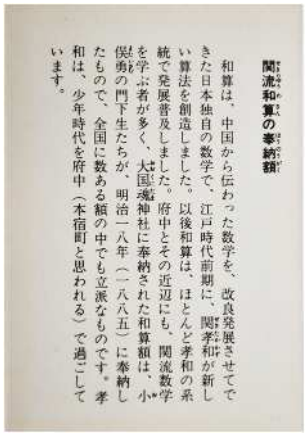


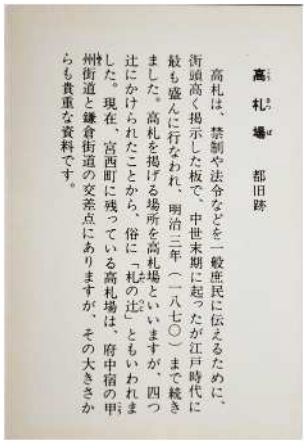
図１－13　わの札



関流和算の奉納額

和算は、中国から伝わった数学を、改良発展させてできた日本独自の数学で、江戸時代前期に、関孝和が新しい算法を創造しました。以後和算は、ほとんど孝和の系統で発展普及しました。府中とその近辺にも、関流数学を学ぶ者が多く、大国魂神社に奉納された和算額は、小俣勇の門下生たちが、明治一八年（一八八五）に奉納したもので、全国に数ある額の中でも立派なものです。孝和は、少年時代を府中（本宿町と思われる）で過ごしています。

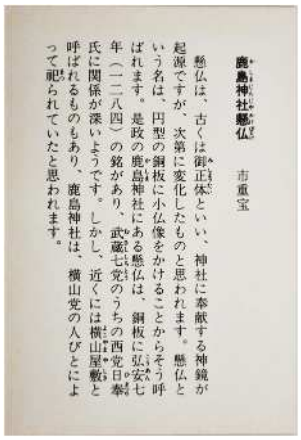
図１－14　かの札



高札場　都旧跡

高札は、禁制や法令などを一般庶民に伝えるために、街頭高く掲示した板で、中世末期に起ったが江戸時代に最も盛んに行なわれ、明治三年（一八七〇）まで続きました。高札を掲げる場所を高札場といいますが、四つ辻にかけられたことから、俗に「札の辻」ともいわれました。現在、宮西町に残っている高札場は、府中宿の甲州街道と鎌倉街道の交差点にありますが、その大きさからも貴重な資料です。

図１－15　よの札



鹿島神社懸仏　市重宝

懸仏は、古くは御正体といい、神社に奉献する神鏡が起源ですが、次第に変化したものと思われます。懸仏という名は、円型の銅板に小仏像をかけることからそう呼ばれます。是政の鹿島神社にある懸仏は、銅板に弘安七年（一二八四）の銘があり、武蔵七党のうちの西党日奉氏に関係が深いようです。しかし、近くには横山屋敷と呼ばれるものもあり、鹿島神社は、横山党の人びとによって祀られていたと思われます。

図１－16　㋟の札

図１－17　㋡の札

図１－18　㋝の札

図１－19　つの札

図１－20　ねの札

図１－21　なの札

図１－22　らの札

図１－23　むの札

図１－24　うの札

図１－25　㋐の札

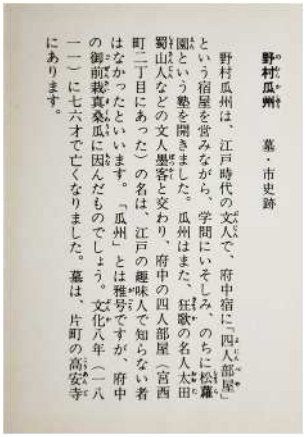


図１－26　㋑の札

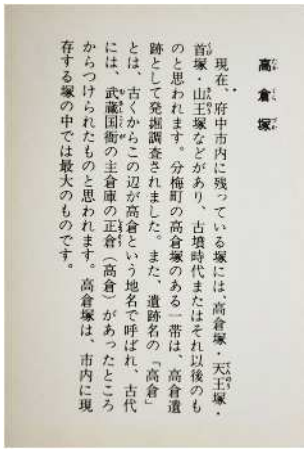
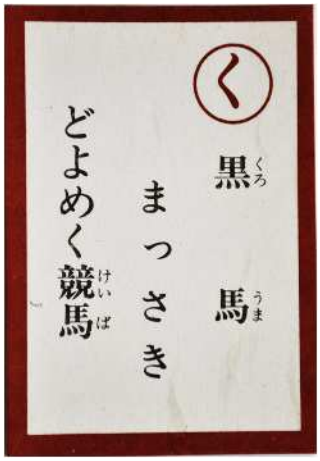


図１－27　㋒の札



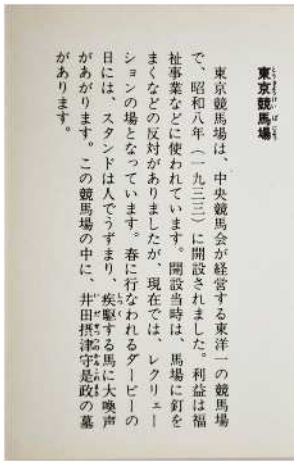
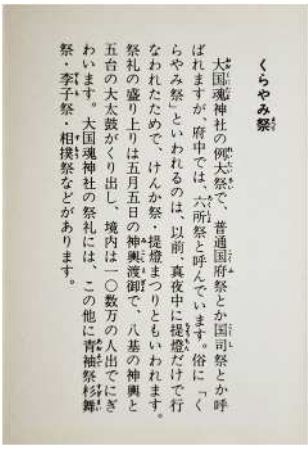
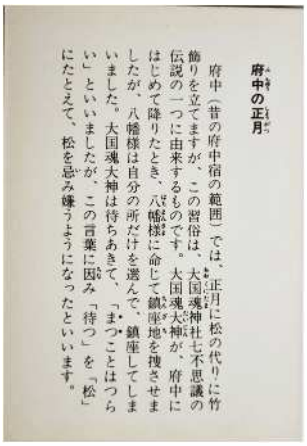


図１－28　㋕の札


くらやみ祭

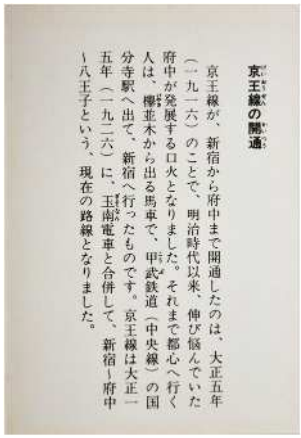
大国魂神社の例大祭で、普通国府祭とか国司祭とか呼ばれますが、府中では、六所祭と呼んでいます。俗に「くらやみ祭」といわれるのは、以前、真夜中に提燈だけで行なわれたためで、けんか祭・提燈まつりともいわれます。祭礼の盛り上りは五月五日の神輿渡御で、八基の神輿と五台の大太鼓がくり出し、境内は一〇数万の人出でにぎわいます。大国魂神社の祭礼には、この他に青袖祭・相撲祭などがあります。

図１－29　㋜の札


府中の正月

府中（昔の府中宿の範囲）では、正月に松の代りに竹飾りを立てますが、この習俗は、大国魂神社七不思議の伝説の一つに由来するものです。大国魂大神が、府中にはじめて降りたとき、八幡様に命じて鎮座地を捜させましたが、八幡様は自分の所だけを選んで、鎮座してしまいました。大国魂大神は待ちあきて、「まつことはつらい」といいましたが、この言葉に因み「待つ」を「松」にたとえて、松を忌み嫌うようになったといいます。

図１－30　㋗の札


京王線の開通

京王線が、新宿から府中まで開通したのは、大正五年（一九一六）のことで、明治時代以来、伸び悩んでいた府中が発展する口火となりました。それまで都心へ行く人は、柳並木から出る馬車で、甲武鉄道（中央線）の国分寺駅へ出て、新宿へ行ったものです。京王線は大正一五年（一九二六）に、玉南電車と合併して、新宿－府中－八王子という、現在の路線となりました。

図１－31　ふの札

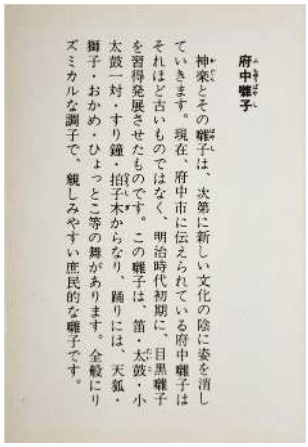


図１－32　この札

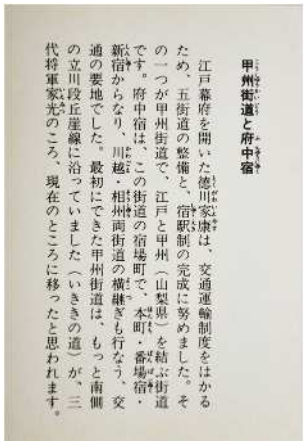


図１－33　えの札

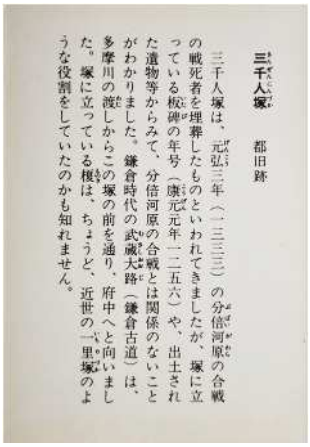


図１－34　ての札

図１－35　あの札

図１－36　さの札

図１－37　㋔の札

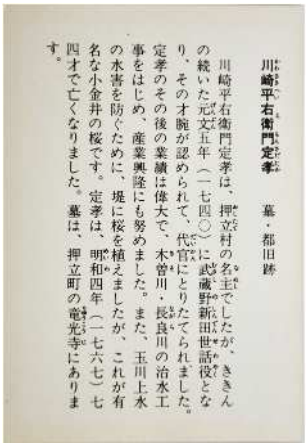


図１－38　㋖の札

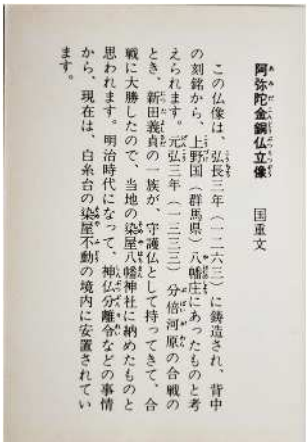


図１－39　�めの札

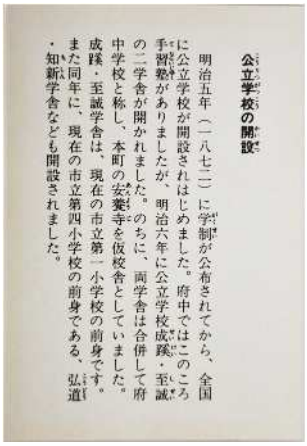


図１－40　�みの札

図１－41　�しの札

図１－42　㋒の札

図１－43　㋮の札

図１－44　㋝の札

図１－45　㋜の札

図１－46　㋐の札

図１－47　予備札

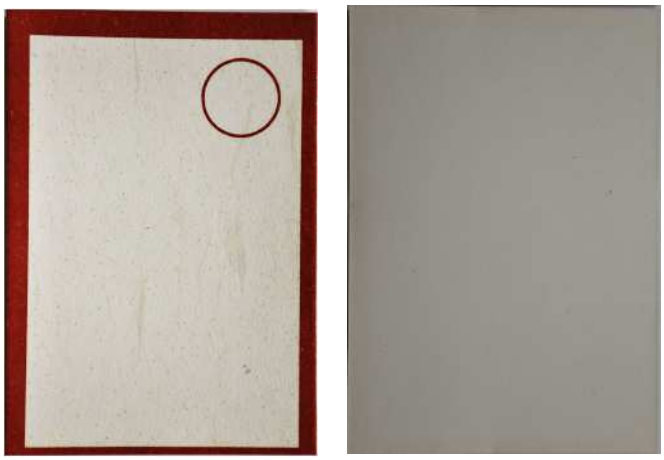
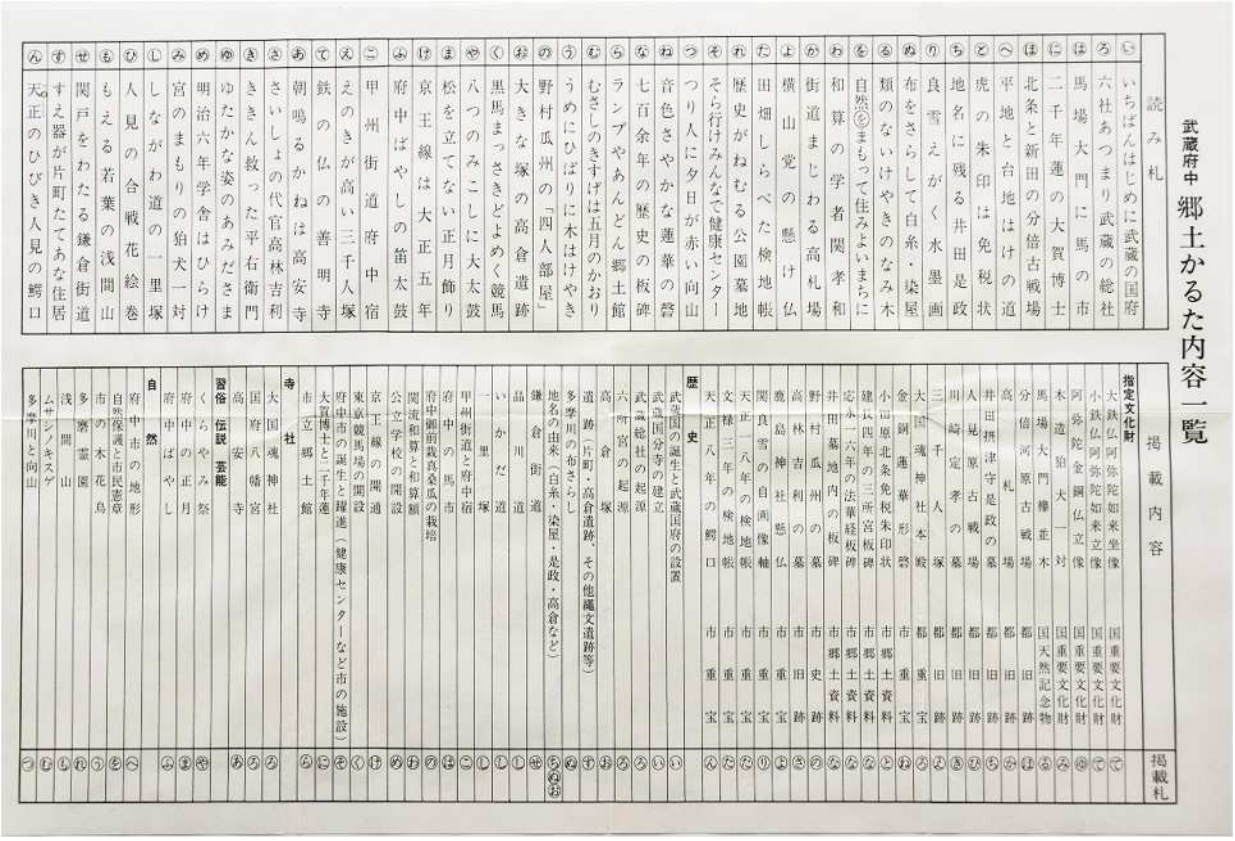


図２　武蔵府中郷土かるた　初刷　項目所在図と内容一覧

図２－１　武蔵府中郷土かるた　項目所在図（表）

図２－２　武蔵府中郷土かるた　内容一覧（裏）



武蔵府中 郷土かるた内容一覧

掲載札	読み札
い	いちばんはじめに武蔵の国府
ろ	六社あつまり武蔵の総社
は	馬場大門に馬の市
に	二千年蓮の大賀博士
ほ	北条と新田の分倍古戦場
へ	平地と台地はけの道
と	虎の朱印は免税状
ち	地名に残る井田是政
り	良雪えがく水墨画
ぬ	布をさらして白糸・染屋
る	類のないけやきのなみ木
を	自然(じ)をまもって住みよいまちに
わ	和算の学者関孝和
か	街道まじわる高札場
よ	横山党の懸け仏
た	田畑しらべた検地帳
れ	歴史がねむる公園墓地
そ	そら行けみんなで健康センター
つ	つり人に夕日が赤い向山
ね	音色さやかな蓮華の磬
な	七百余年の歴史の板碑
ら	ランプやあんどん郷土館
む	むさしのきすげは五月のかおり
う	うめにひばりに木はけやき
の	野村瓜州の「四人部屋」
お	大きな塚の高倉遺跡
く	黒馬まつさきどよめく競馬
や	八つのみこしに大太鼓
ま	松を立てない正月飾り
け	京王線は大正五年
ふ	府中ばやしの笛太鼓
こ	甲州街道府中宿
え	えのきが高い三千人塚
て	鉄の仏の善明寺
あ	朝鳴るかねは高安寺
さ	さいしょの代官高林吉利
き	ききん救った平右衛門
ゆ	ゆたかな姿のあみださま
め	明治六年学舎はひらけ
み	宮のまもりの狛犬一対
し	しながわ道の一里塚
ひ	人見の合戦花絵巻
も	もえる若葉の浅間山
せ	関戸をわたる鎌倉街道
す	すえ器が片町たてあな住居
ん	天正のひびき人見の鶯口

掲載札	掲載内容
	指定文化財
て	大鉄仏阿弥陀如来坐像　国重要文化財
て	小鉄仏阿弥陀如来立像　国重要文化財
ゆ	阿弥陀金銅仏立像　国重要文化財
み	木造狛犬一対　国重要文化財
る	馬場大門欅並木　国天然記念物
ほ	分倍河原古戦場　都旧跡
か	高札場　都旧跡
ち	井田棋津守是政の墓　都旧跡
ひ	人見原古戦場　都旧跡
き	川崎定孝の墓　都旧跡
よ	三千人塚　都旧跡
ら	大国魂神社本殿　都重宝
ね	金銅蓮華形磬　市重宝
と	小田原北条免税朱印状　市郷土資料
な	建仁四年の三所宮経板碑　市郷土資料
な	応永一六年の法華経板碑　市郷土資料
な	井田墓地内の板碑　市郷土資料
の	野村瓜州の墓　市史跡
き	高林吉利の墓　市旧跡
ど	鹿島神社懸仏　市重宝
り	関良雪の自画像軸　市重宝
よ	天正一八年の検地帳　市重宝
た	文禄三年の検地帳　市重宝
た	天正八年の鯛口　市重宝
ん	**歴史**
い	武蔵国の誕生と武蔵国府の設置
い	武蔵国分寺の建立
ろ	武蔵総社の起源
ろ	六所宮の起源
は	高倉塚
に	遺跡（片町・高倉遺跡、その他縄文遺跡等）
ほ	多摩川の布さらし
へ	地名の由来（白糸・染屋・是政・高倉など）
と	鎌倉街道
ち	品川道
り	いかだ道
ぬ	一里塚
る	甲州街道と府中宿
を	府中の馬市
わ	府中御前裁真桑瓜の栽培
か	関流和算と和算額
よ	公立学校の開設
た	京王線の開通
れ	東京競馬場の開設
そ	府中市の誕生と躍進（健康センターなど市の施設）
つ	大賀博士と二千年蓮
ね	市立郷土館
な	**寺社**
ら	大国魂神社
む	国府八幡宮
う	高安寺
の	**習俗 伝説 芸能**
お	くらやみ祭
く	府中の正月
や	府中ばやし
ま	**自然**
け	府中市の地形
ふ	自然保護と市民憲章
こ	市の木花鳥
え	多磨霊園
て	浅間山
あ	ムサシノキスゲ
さ	多摩川と向山

図3　武蔵府中郷土かるた　初刷　あいさつ状

武蔵府中

郷土かるた

ことば　市民から公募
絵　赤羽末吉画伯
解説・監修　郷土かるた作製委員会
編集　府中市立郷土館

ごあいさつ

府中市は、緑と水と太陽に恵まれた自然の豊かな町です。また、遠く大化の改新により、武蔵国の国府として政治、経済、文化の中心地となってから、1320余年という長い歴史をもった町です。

このような郷土府中に、より親しんでいただく一つの手がかりになればと願って、市民の皆さん多数からご応募をいただき、ここに、やさしく、明るく、ロずさみながら親しんでもらえる「武蔵府中郷土かるた」を作製しました。大いにご利用願えれば幸いです。

昭和48年1月

府中市長　矢部隆治
府中市教育委員会

図4　武蔵府中郷土かるた　初刷　収納箱

図4－1　武蔵府中郷土かるた　収納箱　蓋（表）

図４－２　武蔵府中郷土かるた　収納箱　蓋（裏）

図４－３　武蔵府中郷土かるた　収納箱　蓋（側面）

図４－４　武蔵府中郷土かるた　収納箱　身（内面）

図４－５　武蔵府中郷土かるた　収納箱　身（外面）

図４－６　武蔵府中郷土かるた　収納箱　身（側面）